

松江市農業委員会だより

あさつゆ

第35号

(編集・発行) 松江市農業委員会 〒690-8540 松江市末次町86番地 ☎55-5528 平成28年12月発行



ヤギ端会議(松江市東持田町振興協議会) 8ページに紹介記事

あぜみち



申年も残り僅かとなりました。今年を振り返りますと、地震、猛暑、干ばつ、台風、日照不足、長雨と、農家の苦労が絶えない年ではなかったでしょうか。農地は、食料の生産のみならず美しい農村空間の形成や洪水防止等の多面的機能を有するなど、人々の「くらし」の「ち」を支える重要な資源です。苦労しながら農地を守り、農地の大切さを一段と感じた年でした。

さて、年ごとに変わる農業政策に、安心して農業に打ち込める要素が感じられません。T P P問題を始め、経営転換だ、経営所得安定対策だと表面的にはもっともらしい名目であるが、理屈ばかりを詰め込んで型にはめた内容でしかなく、実際の現状とは隔たりを感じているのは私だけでしょうか。

今年も、松江市農業委員会より松江市長に建議をいたしました。

今日の農業・農村を取り巻く環境は、人口減少・農業従事者の高齢化や担い手不足の深刻化、農産物価格の低下、生産資材の高騰、耕作放棄地の増加など多くの問題を抱えています。

不透明なT P P交渉、担い手の支援、農地の確保、農家住宅の空き家等の対策についての農業委員会からの提言が、市の施策にどう講じられるのか、西年に期待しています。

(治)



原会長から建議書を提出

市長に建議

松江市農業委員会は、本市農業発展に向けた具体策について、農業者や関係機関・団体からの意見を積み上げて、平成28年10月31日、松江市長に対して建議書を提出しました。(一部内容を抜粋)

1. TPP協定の大筋合意に伴う国内対策について

【質問・要望】

- ①国民の不安、懸念の払拭
- ②持続可能な農業を行うための施策

【回答】

- ①全国市長会を通じ、正確かつ丁寧な説明・情報発信などの要望を国に提出している。
- ②農村地域の活性化と農村コミュニティの維持を地域ぐるみで進めて行く。集落営農の組織化・法人化、特産品の産地化として担い手の育成・確保、生産の維持拡大等に向けて、県、市、JAが連携して取組む。

2. 担い手の育成・確保対策について

【質問・要望】

- ①新規就農者の育成・確保
- ②園芸施設等の更新助成
- ③新たな担い手の育成支援

【回答】

- ①県、市、JAの3者で就農支援チームを結成し、個別的就農予定者に対する支援体制を強化。「だんだん営農塾」の修了生に対し、関係機関の技術職員が営農指導を実施。

「さんちよく営農塾」の修了生に對しては、東出雲の干拓地で楽しみながら継続して農業をしていただくことを検討。併せて、引き継ぎ営農指導を行う。

- ②要望が強い「小型パイプハウス」について、市とJAで構成する松江市農業振興協会において、助成制度を新設した。

③県立松江農林高校と連携し、インターシップの受入れ農家を拡充することで、新規就農者の受入れにつなげる。

また、県立松江農林高校の生物生産科2年生を対象に「だんだん営農塾」で農業体験実習を行い、卒業後の就農につなげる。



3. 農地の維持・保全について

【質問・要望】

- ①集落営農の組織化・法人化
- ②日本型直接支払制度の安定的な運用
- ③有害鳥獣対策に対する補助金の充実

【回答】

- ①担い手への農地集積の推進は、農業法人や集落営農組織が中心的役割を担う。現在、15の組織・地域に対して組織化・法人化を支援中。併せて収益性の高い作物生産への転換と、生産、加工、流通、販売を通して儲かる農業の推進を県、JAと連携して取組む。

②安定的な制度運用がなされるよう、十分な予算確保を引き続き国に要望していく。

③新規の資材購入への支援、広域的に囲む防護柵の資材支給を実施。

鳥獣害防護柵の毎年度の設置・撤去については、多面的機能支払・中山間地域等直接支払の交

付金の中で取組んでいただきました。
 狩猟免許の取得にかかる経費を
 軽減する公的支援制度を新設す
 るよう国に要望中。

4. 農村地域集落の維持・活性化について

【質問・要望】

市街化調整区域内において、農
 家住宅の空家等を、非農家の方も
 容易に活用が可能となるよう検
 討。

【回答】

調整区域の定住に資するような
 制度運用の見直しを含め、都市計
 画マスタープランの改定作業の中
 で、議論する。



農地利用の最適化の推進に熱意と識見のある

「農業委員」と

「農地利用最適化推進委員」を

募集!

《新農業委員会体制（H29.7.24～）の概要》

農業委員会等に関する法律が改正され、農業委員の選出方法が選挙による選出から、議会の同意を必要とする市長による任命制へと変更になりました。

また、新たに担当区域で「※農地利用の最適化」に係る現場活動を行う農地利用最適化推進委員が設置されます。つきましては、委員の募集内容について下記のとおりお知らせします。

記

- ① 募集期間 平成29年1月中旬～平成29年2月中旬（予定）
- ② 募集方法 農業委員と農地利用最適化推進委員のどちらも「推薦（個人・団体）」と「応募（自薦）」の2種類の方法があります。
- ③ 募集人数及び区域
 年内に決定する予定です。なお、決定次第、速やかに本内容と手続き方法を記載した募集要項を市ホームページ、市役所農業委員会事務局及び各支所等で周知いたします。



※農地利用の最適化：担い手への農地集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進を図ること。

お問い合わせ

農業委員会事務局 電話55-5528

営農組合の立ち上げ

近年、米価低迷が続く中、玉湯町の林本郷地区においても、農業者の高齢化と同時に、各々が所有する農業機械を更新する意欲も減退し、後継者も益々減りつつある。今後耕作放棄地や農地の荒廃が懸念されるため、平成5年に圃場整備事業完了以降から実施していた、個々の農家による集団転作を発展的に解消し、平成27年4月にそばの生産を中心とする林本郷

農地の保全と農業の維持・発展をめざす

玉湯町 林本郷営農組合



営農組合（構成員30戸）を任意組織として立ち上げ、経理と経営の一本化を実施した。

耕作放棄地再生に取り組み

平成27年には、国・県・市の耕作放棄地再生事業の補助金を活用し、営農組合が事業主体となって地権者5名から10数年來の不耕作農地である水田を借り受け、草刈りや明渠、暗渠排水の整備、耕作地に日陰ができるのを防ぐため周



荒廃農地の草刈り

辺山林の陰手刈り（のうてごり）を実施し、約69㍓を超湿田から乾田に転換した。

平成28年度は、さらに26㍓の荒廃水田を、再生する予定としており、次年度以降は約9㍓の耕作に取り組み予定。

また、地区内では、多面的支払交付金を活用、自走式草刈機や乗用型草刈機などを導入して農道や水路溜池などの草刈りを実施し、農地・水利の保全を図り、耕作放棄地は年々減少している。

エゴマ栽培に挑戦

本年度は、そばだけではなく、初の試みとしてエゴマの栽培にも挑戦、6月に9名の組合員が水田12㍓に苗を定植した。エゴマはシソ科の作物で、鳥獣害に遭いにくく管理が比較的容易であり、種子から搾るエゴマ油は健康食品として注目されている。

10月に初収穫したエゴマ58㍓は、エゴマ油に委託加工し、地域のイベントで、格安にて販売した。また組合員と住民が一緒に、新そばを使ったそば打ち体験と試食会、地元野菜等の農産物のチャリ



エゴマの収穫作業

ティーバザーを実施するなど、地域の活性化にも貢献している。

今後の目標

今後は、そばに加えエゴマの栽培技術を研鑽して増反を図り、エゴマを林本郷地区の特産として生産から加工販売まで出来るようになりたい。

また二毛作として、試行的に小麦の栽培を行うなど、地域の担い手として法人化を目指したい。

新規就農者紹介 干拓でキャベツ栽培に 取り組む

東出雲町 鶴原 守さん



農業を始めたきっかけ

2年前までは、農機具部品関係の会社に勤務していましたが、キャベツ栽培をしていた父が怪我をしたきっかけで、収穫の手伝いをするようになりました。

手伝いしてみると、時間に追われた会社の仕事とは違い、自分のペースで仕事ができることや、自分が頑張った分だけ収穫の喜びがあることに魅力を感じてきました。もともと、身体も動かすことが好きだったので、まず、農業の

技術を習得しようと、平成26年5月から、ふるさと島根定住財団の「若いしまね人のための就労体験事業」で農業体験をしました。農業をするなら広い干拓でやりたかったので、中海揖屋干拓のキャベツづくりの名手である奥名昭一さんに指導を受け、体験終了後の平成27年3月から今年2月までは、そのまま奥名さんのところで就農研修も受けました。

現在の取り組み

野菜栽培の中でキャベツを選んだのは、キャベツは定植機で植えることができることや、圃場のあ



とれたてのキャベツを手にする鶴原 守さん



キャベツの収穫作業

る中海揖屋干拓にはJ.Aのキャベツの出荷場があり、作業効率が良いと判断したからです。

現在は、兄と共に、140坪の圃場でキャベツを栽培、輪作でスイートコーンを作っています。栽培は、天候に左右されるため、圃場の水はけが悪かったり、葉に病気が出たりしますが、その反省点を次の作業に活かすように心がけています。

今年7月に定植したキャベツは順調に生育し、予定より早く9月下旬から収穫することができました。収穫後のキャベツは、青果市場や市内の産直店舗に出荷しています。

今後の課題と目標

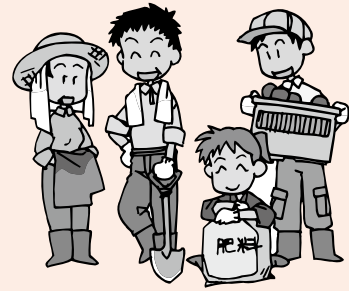
就農後は、地域の農業者の方との繋がりもでき、干拓で就農している仲間とも交流しています。栽培についてアドバイスを受けた情報交換ができるので、人との繋がりを大事にしたいと思います。また、キャベツの栽培規模を拡大し、将来は従業員を雇用していきたいです。

若い人が就職を考えた時に、仕事のひとつの選択肢として、農業を考えてくれるようになったら良いと思っています。

今回取材した鶴原さんは、好青年で友達もたくさんおられ、将来の夢に向かって失敗してもくじけない人だと思いました。これから頑張ってキャベツの栽培規模を拡大してください。

(吉岡郁夫農業委員)

多面的機能支払交付金事業 活動組織の皆様へ



平成28年度に事業計画の終期を迎えられる組織は、継続の有無にかかわらず「地域資源保全管理構想」を

策定し、**平成29年3月31日までに農政課へ提出**をお願いします。

継続して活動に取り組む組織にあっては、新規で取り組む組織と同様に法律に基づく事業計画を作成し、新たに松江市の認定を受ける必要があります。早期の事業計画認定のため、今年度中に事業計画をつくりましょう。

今年度で活動期間が終了する組織が、松江市では18組織、県内では127組織あります。

9月に意向調査を行わせていただいたところ、終了する組織の中には、集落の高齢化等により「今後、5年間も活動を続けるのは難しい」との声もありました。

地域の実情に応じた取り組みの普及・定着に向け、皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますので、何かありましたら遠慮なくご相談ください。

【お問い合わせ先】 松江市農政課農業振興係 電話55-5224

知って得する！

農業者年金

- ① 国民年金の第1号被保険者で
- ② 年間60日以上農業に従事する
- ③ 60歳未満の方なら

どなたでも
加入できます



少子高齢時代に強い年金

農業者年金は、自ら積み立てた保険料とその運用実績により将来受け取る年金額が決まる「**積立方式（確定拠出型）**」です。少子高齢化が進んでも安定性が損なわれない制度で、国民年金と組み合わせることで、安心して豊かな老後の備えとなります。

また、保険料は月2万円から6万7千円の間で自由に設定でき、いつでも見直せます。

終身年金で80歳までの保証付き

年金は生涯支給されます。もし加入者・受給者が80歳前に亡くなった場合は、死亡した翌月から80歳までに受け取れるはずだった年金額が死亡一時金として遺族に支給されます。

公的年金ならではの節税効果

支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となるので、税率に応じて所得税・住民税が減額されます。これにより、実質的な支払額が減少すると考えることができます。貯蓄や個人年金保険にはない、大きなメリットです。

保険料支払いによる年間節税効果の試算（所得税＋住民税）

課税対象所得	税率	保険料支払い額		
		月額2万円 (年額24万円)	月額5万円 (年額60万円)	月額6.7万円 (年額80.4万円)
195万円以下	15%	36,000円	90,000円	120,600円
195万円～330万円	20%	48,000円	120,000円	160,800円
330万円～695万円	30%	72,000円	180,000円	241,200円

●保険料支払い前後で適用される税率に変更がないものとして試算しています。
●民間の個人年金保険に加入した場合の年間節税効果は、保険料年額が8万円を超えると一律で、税率15%で4,800円、20%で6,800円、30%で10,800円です。公的年金である農業者年金の節税効果の大きさがわかります。

詳しくは、松江市農業委員会事務局（☎55-5528）もしくはお近くのJAまでお気軽にお問い合わせください。

人・農地プランとは

皆さんの地域の
「人(担い手)と農地の問題」
について、考えてみませんか？

島根県の
就農平均年齢は
70歳！

- ◎今後の中心となる経営体（個人、法人、集落営農）はどこか
- ◎地域の担い手は十分確保されているか
- ◎将来の農地利用のあり方
- ◎農地中間管理機構（しまね農業振興公社）の活用方針
- ◎近い将来の農地の出し手の状況（いつ頃、どのくらい出す意向か）
- ◎中心となる経営体とそれ以外の農業者（兼業農家、自給的農家）の役割分担を踏まえた地域農業のあり方（生産品目、経営の複合化、6次産業化）

集落・地域が抱える「人（担い手）と農地の問題解決」のため、上記のことを決めていただく取組について支援します。

人・農地プランには、様々なメリット措置があります。

- 「人・農地プラン」に担い手（地域の中心経営体）として位置づけられると、さまざまな支援を受けることができます。
- 農地の出し手として農地中間管理機構（しまね農業振興公社）に農地を貸付けると、予算の範囲で各種協力金の交付を受けることができます。



★職員が説明に伺います！★

●問い合わせ● 松江市農政課 TEL:55-5225 FAX:55-5246



営農とくらしに役立つ農業総合専門紙を
購読してみませんか

- ◆月4回金曜日発行 ◆購読料 月700円
- ◆購読のお申し込みは農業委員会事務局(電話55-5225)まで

まつえし農林水産祭



多くの来場者でにぎわう会場



しめ縄づくり大成功！

農業委員会は、「しめ縄づくり体験コーナー」と「お米の食べくらべコーナー」を出店。

農業委員は、参加された方と一緒にしめ縄をつくったり、「コシヒカリ」と「きぬむすめ」、「つや姫」を炊いて味をくらべてもらうなど、来場者との交流が活発に行われました。

10月30日開催

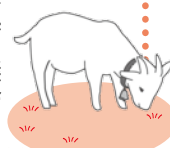
毎年恒例の「まつえし農林水産祭」が松江総合運動公園中央広場で開催されました。地元の旬な農産物や海産物、特産品などの販売やステージイベントなど盛りだくさんの催しでにぎわいました。



お米の食べくらべコーナー

表紙紹介

松江市東持田町振興協議会



東持田地区の雑草が生い茂る耕作放棄地や空き地などをこのまま放置させてはならないという思いから、地区の6町内会で組織する松江市東持田町振興協議会では、平成27年に雑草対策としてヤギの放牧を計画しました。計画では、ヤギを放牧することにより、草刈りの代行を試行し、併せて、地域イベントなどでヤギとの交流の場を設け、地域交流にも活用することにしました。この計画は、「ヤギの草刈り事業（ヤギ端会議）」として、平成27年度の「松江市共創のまちづくり事業補助金」に採択され、ヤギ2頭を購入しました。

現在、このヤギは、畜産農家の藤原薫さんに飼育を委託、耕作放棄地への放牧、公民館の文化祭などでヤギとのふれあいコーナーを設けています。ヤギとのふれあいは、癒しの効果もあるようです。

今後も、地域全体で環境を保全する仕組み作りに取り組んでいきたいと考えています。

編集後記



今年は4月の熊本大震災に始まり、8月には気象庁が昭和26年に観測を始めて以来、台風が初めて太平洋側から東北・北海道に上陸、さらには10月の鳥取中部地震など、各地で自然災害が発生しました。被害に遭われた方に、お見舞い申し上げます。

さて、来年7月の農業委員任期満了後には、農業委員改革により新たに設置される、農地利用最適化推進委員と農業委員が連携して、担い手への農地利用の集積化・集約化を加速し、耕作放棄地の発生防止や解消を推進することになっています。いかにして、農地利用の効率化・高度化の取り組みができるかが今後の農業委員会に期待されることだと思います。

農業変革の過渡期の中、来年が実りある年になるよう願っています。

(郁)

平成28年度情報委員会

委員長	松浦 久年
副委員長	南波 達夫
委員	伊原 伸一
委員	柳原 治
委員	石橋 敦夫
委員	吉岡 郁夫